

医療法人 八誠会

もりそう教育だより

令和8年4月発行 (No.19)

発行/もりやま総合心療病院
看護部

TEL052-791-2133



新年度が始まりました

今年は桜の開花が早く、4月の入所式までもつかしらと心配しておりましたが、なんとかがんばってくれて、桜とともに新入職の方々を迎えることができました。花吹雪も堪能させてもらい、今はもう若々しい葉が茂っています。毎年、春に桜を楽しめる日本人に生まれてよかったと思っています。

当院では4月1日に病院全体のオリエンテーション教育があり、2日に看護部のオリエンテーション教育があり、その後に新人看護師の演習が続くので、私たち看護教育部門は慌ただしい毎日を送っております。そんな中、入所式では、10年、20年、30年の永年勤続者表彰もありました。看護師不足で病棟が閉鎖されている病院もあるというニュースを聞くと、こうして長く働いておられる方と新しい方が力を合わせて医療を行っていただけることは、ありがたいことなんだなあと感じます。当院は開設74年になるのですが、今後もこうして新しい方をお迎えしながら、長く続いていってほしいと願っております。

【オリエンテーション参加者の感想】

先日、新入職者オリエンテーションに参加させていただきました。病院の理念や特色を改めて聞いて、当院で働く職員として今一度気が引き締まったと同時に、同期の皆さんと顔を合わせることができ、とても充実した時間でした。病院内で同期が働いている姿を見かけると、私もうがんばろうと元気をもらえます。入職して半年が経過した中で業務に少しずつ慣れてきて楽しさを感じていますが、悩むことも多い日々です。周りの先輩にも支えていただきながら、今後も利用者様や病院に貢献できるよう努力し続けていきたいと思っております (訪問看護ステーションたいむ 塚本波穂)

入職者交流会では、それぞれの好きなことについて語り合い、積極的に質問を交わすことで、互いの人となりを深く知ることができました。その経験を通して、配属後も自然と会話が弾み、円滑な関係構築につながっています。また、交流会の内容を部署内で共有したことで、参加していない先輩方とも話題が広がり、職場全体でのコミュニケーションにもつながったと感じました。 (B3病棟 千代坂莉子)

春のインターンシップを終えて、夏の日程が決まりました。夏のインターンシップは、7月31日(金)、8月4日(火)、8月27日(木)の3日間です。都合がつかない場合は、個別の見学会にも対応しております。看護部長の林 (m-hayashi@8seikai.jp または 052-791-2133) までお気軽にご連絡ください。看護部一同、心よりお待ちしております。



病院説明会に行ってきました



当院には現在7校の看護大学や専門学校が実習に来られていますが、いくつかの学校で実習校の病院説明会を開催してくださっています。そのうちのひとつ、瀬戸旭看護専門学校の説明会が3月に開催されました。瀬戸旭とは昔からご縁があって、たくさんの卒業生が働いています。今回、卒業生の管理者や若いスタッフ達に説明会に行ってもらいました。説明会に行ってくれたスタッフの感想を…の前に、昨年準備をすすめていた新パンフレットができましたので、その話を少々させてください。基本コンセプトは変えずにリフレッシュしたい、スタッフの声も届けたいといろいろな思いをもって、秋から取り組んでいたパンフレットづくりですが、なかなか難航しました。イメージを言葉で伝えることのむづかしさ、ちょっと希望と違うんだけどじゃあどう伝えれば思ったようなものになるのか、これから何年も使うのだから妥協もしたくない、悶々とする日々が続き、印刷会社や事務の担当者とも何度も話し合いをして、難産の末にようやく完成しました。できあがってみれば愛着も湧き、説明会には新しいパンフレットを持って行ってもらいたいという願いも叶ってよかったです。見学会やインターンシップでもたくさん使っていきますので、ぜひお越しください。



【病院説明会に参加して】

瀬戸旭看護専門学校の病院説明会に行ってきました！今年では例年と違い7名で行きました。ほとんどが瀬戸旭出身者であったため、移動や待機時間などでは当時の思い出話に花を咲かせていました。当時から変わっていないところや、大きく変わっているところもあり、懐かしみつつも時間の流れを感じました。説明会は学生5人に対してスタッフ2人の4グループに分かれて行いました。精神科に対してコミュニケーションが難しそう、実習に対しての不安など学生の悩みを聞きながら、当院のライフワークバランスの良さや働きやすさについて熱弁してきました！1人でも精神科に興味を持ってもらえたら、当院で一緒に働けたら、と楽しみにしています。(F3病棟 岡田勇真)

3月に母校である瀬戸旭看護専門学校へ病院説明会に行ってきました。1グループ5~6人の学生さんに対して、1日の業務内容や病棟の雰囲気について説明したり、学生さんからの質問に答えたりしました。これを計3回行いましたが、どのグループでも必ず言われた言葉があります。それは「精神科は怖いイメージ」です。まだ、病棟実習を行っていない学生さんたちにとっては授業での情報しかないためそう思うのだらうと思いますが、今回の説明会で精神科に対するハードルが少しでも下がっていれば良いなと思いました。(B2病棟 林美穂)

死ぬる覚悟を…聞きたい？



皆さん、このタイトルを見て何のことかわかりましたでしょうか？大ブームとなった国宝に出でくる上方歌舞伎『曾根崎心中』の名セリフです。実は、私も国宝のブームに乗りまして、映画は3回見ましたし、人間国宝の坂東玉三郎さんの歌舞伎を観るために東京の歌舞伎座に出向き、京都の南座には『曾根崎心中物語』を観に行くという執心ぶりでした。

曾根崎心中はシネマ歌舞伎も見ましたが、内容が切なくて複雑な気持ちになりました。江戸時代、醤油屋の手代の徳兵衛が幼馴染に金をだましとられ、そのうえ証文を偽造したと難癖をつけられて、命を懸けて身の潔白を証明し来世で添い遂げるために遊女お初と心中するという話ですが、私としては、だまされて絶望した末に二人で命を絶つという結末にどうしても納得ができないのです。時代が違うのかもかもしれませんが、店主の意向や悪い幼馴染にやられっぱなしではなく、誰かの助けを借りて何とか生きる道を探してほしいと思ってしまう。不遇な環境や悔しい出来事にも負けずに「生きる覚悟が聞きたい」と思います。

看護教育 菊池美智子（精神看護専門看護師）